

私たちが生きる“未来”を考える

世界で取り組むSDGs。学校でも、学習が始まっています！



大崎中学校2年生の生徒と担当職員が、7月10日(土)、カードゲームを通してSDGsについて学びました。総合的な学習の時間に環境教育として、持続可能な社会の実現に向けて、学び・考え・行動する力を育成することを目的に行われました。

今回取り組んだカードゲームは、「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、「それがあってによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解するためのゲームです。3・4人で1つのチームとなり、活発に意見を出し合い、他のチームと交渉や助け合いを行う姿も見られました。

授業を受けた木尾夏萌なつもさんは「SDGsについてあまり知らなかったが、カードゲームや振り返りを通して興味を持つことができ、また、大崎町のSDGsの取り組みが注目されていることを知ることができた。これからの生活はSDGsを意識して、積極的に関わっていきたい」と話されました。

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。「誰も置き去りにしない」をテーマに、貧困、健康、福祉、教育、気候変動など、17のゴール(目標)と169のターゲット(具体目標)から構成されています。

私たちの生活は、経済発展や技術開発により豊かで便利なものとなりました。その一方で、温暖化をはじめ、様々な環境問題が深刻化しています。大量生産と大量消費を繰り返し、このままだと地球に住めなくなってしまうと言われています。私たちがこれからもずっと住み続けられる世界にするため、地域規模で課題を解決する具体的な目標が、SDGsなのです。



授業の様子 📍 大崎中学校体育館